

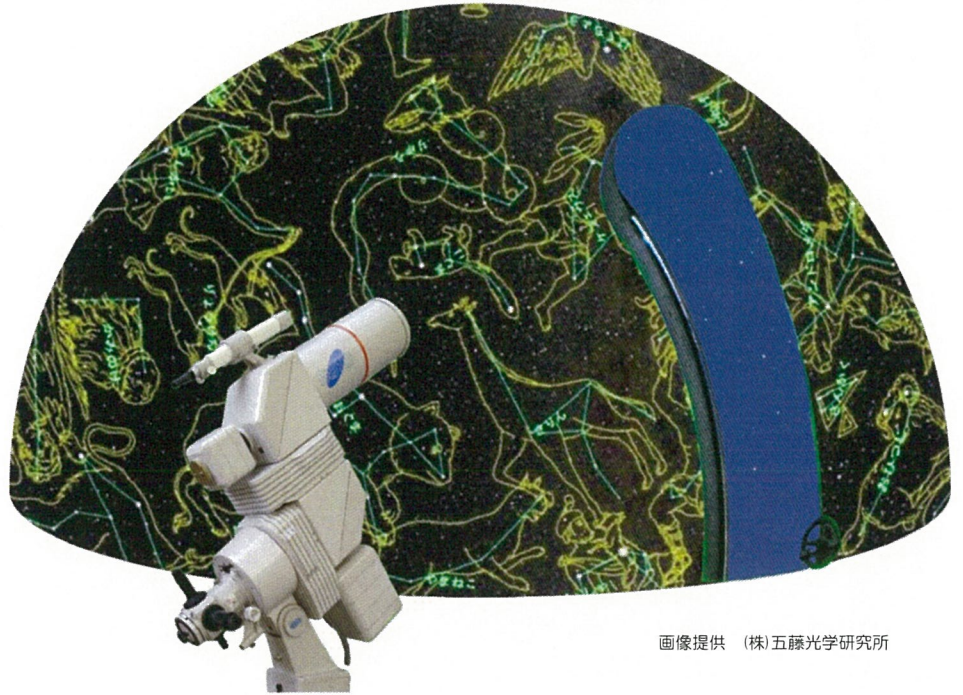
五藤テレスコープの公開天文台向けソリューション

天体観測ドームの丸屋根がプラネタリウムに OPEN SKY

[オープン スカイ]



天文台のドーム内からスリットを通して見る星空は、星空に慣れ親しんだ専門の人でも、正面に何座があるのか分かりづらいものです。丸屋根のスリット以外の部分にプラネタリウムの星空が映ったら便利だと思いませんか。デジタル全天周映像の技術を用いて、まるで丸屋根がなくなってオープンスカイになったような環境をお届けいたします。

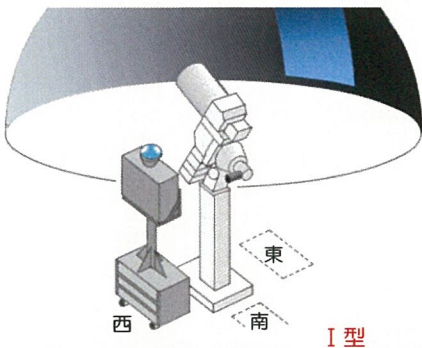


画像提供 (株)五藤光学研究所

この製品は五藤光学研究所のバーチャリウムという全天周デジタル映像の技術がベースになっており、天体観測ドームの規模に応じて3種類のシステムが用意されています。

I 型

単眼の全天周プロジェクターによって映写します。プロジェクターの設置場所は東・南・西の決まった位置に設置が可能で、中央には望遠鏡が置かれていますので、プロジェクターの偏心した位置を自動補正した画像がドームに映写されます。



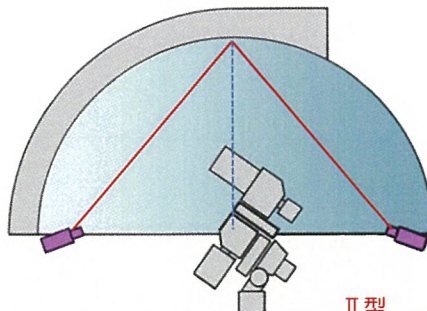
I 型

II 型

2台のプロジェクターでドーム全体の画像をカバーしています。I型に比較して画像の解像度(全天でおよそ2Kx2Kピクセル)が高くなっているのが特長です。

III 型

大型望遠鏡を収めた大型ドーム用としてお奨めします。プロジェクターはドームの表面に設置され、望遠鏡の影を極力少なくするように配慮されています。映像はスリットを含む正面およそ60%に映写され、ドームが回転しても常に正面の



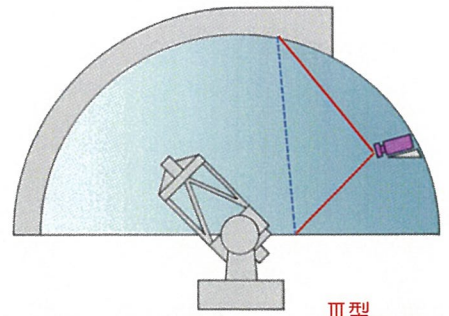
II 型

方向の画像が提供されます。

その他

この技術は五藤光学研究所が所有する、天体観測ドームに投射する星空映像の特許をベースに、五藤テレスコープのアイデアを盛り込んで製品化したものです。観測ドームと望遠鏡の関係でコストが変わりますので、価格、設置費はお問い合わせください。

またいずれの場合でも望遠鏡の影が映像の一部を隠しますが、観測に支障はありませんが、この点をご容赦ください。



III 型

五藤テレスコープ(株)は、(株)五藤光学研究所の望遠鏡事業を継承するため、100%子会社として2012年に誕生しました。



五藤テレスコープ株式会社

183-0025 東京都府中市矢崎町4-1 TEL 042-319-1603 (FAX1609)
www.gototelesco.co.jp e-mail: info@gototelesco.co.jp